



**Mother Lake
Goals**

変えよう、あなたと私から

資料3-2

滋賀県における取組等について

第10回 琵琶湖保全再生推進協議会幹事会

令和8年(2026年)9月9日(水)

滋賀県

マザーレイクゴールズ(MLGs) に係る取組状況について

マザーレイクゴールズ(MLGs)とは

マザーレイクゴールズ(MLGs)とは、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会の実現を目指す目標(ゴール)であり、「琵琶湖版のSDGs」



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から



- ✓ 令和3年7月1日(「びわ湖の日」40周年記念日)に策定
- ✓ 琵琶湖を中央に配し、周囲には円形の中に13のゴールカラーを配置
- ✓ 円形は琵琶湖を取り巻く湖国・滋賀、そして地球を表現している
- ✓ 「琵琶湖は暮らしを映す鏡」「琵琶湖は地球環境を見通す窓」であることを表し、琵琶湖・滋賀から世界を変えるための目標であることを示している

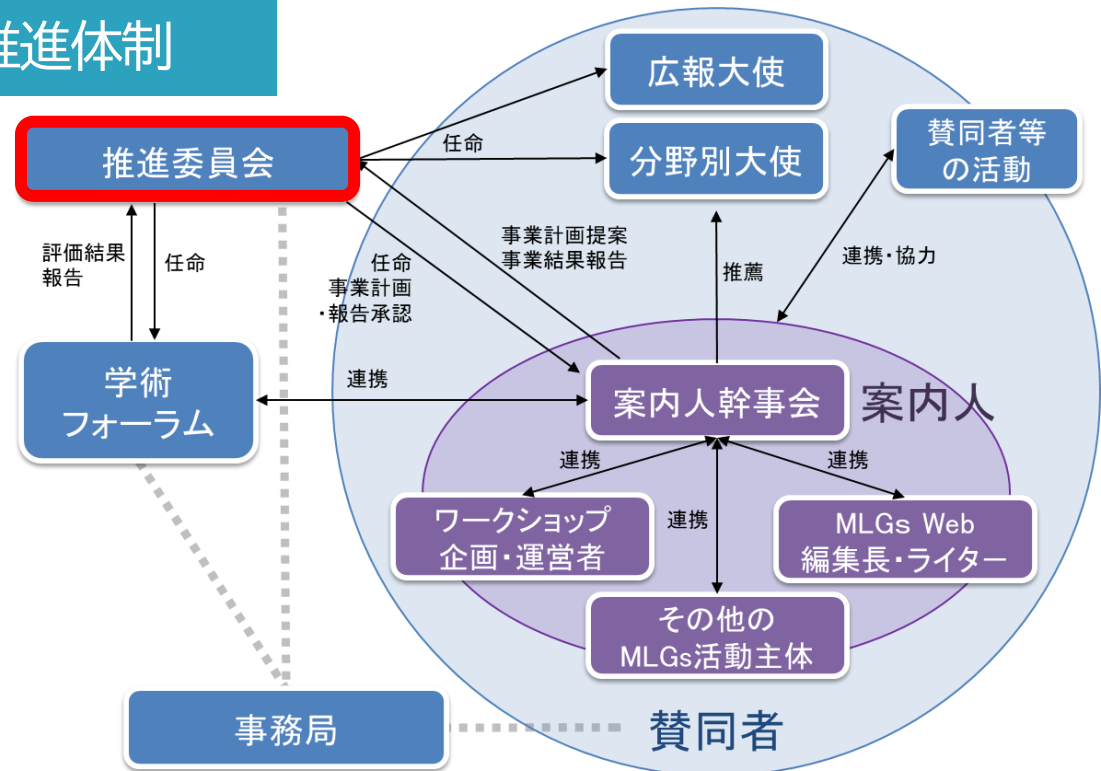
マザーレイクゴールズ(MLGs)の推進体制

- ✓ SDGsの視点から見ると、琵琶湖を通じてSDGsをアクションまで落とし込む仕組みがMLGsであり、MLGsの取組はSDGsの達成に貢献するもの
- ✓ マザーレイクゴールズ(MLGs)からの視点で見ると、琵琶湖を通じて、県民等多様な主体による活動がSDGsに繋がっていることを発見する仕組み



マザーレイクゴールズ(MLGs)の推進体制

- ✓ **MLGs推進委員会**は、今回の中間評価や重要事項等にかかる**意思決定機関**
- ✓ 学術委員から成る「学術フォーラム」を設置し、毎年、MLGs評価報告書を作成・公表
- ✓ 案内人の中から案内人幹事を選出し、ワークショップ等の事業の企画・取組を総括する執行機関として、「案内人幹事会」を設置
- ✓ MLGsアジェンダに基づき、MLGsの推進に向けた組織である「MLGs推進委員会」の運営は、現在、県(琵琶湖保全再生課)が担っている



MLGsに係る令和7年度の取組実績

■令和7年度のMLGs推進事業では、「ひろげる」、「つなげる」、「ふかめる」3つの取組を重点事項に事業を実施

ひろげる

2026/4/1時点

賛同者数

1,974者



- ◆ 賛同者、ロゴマーク利用は継続して増加
- ◆ 認知度は27%程度で横ばい

情報発信

MLGs WEB等掲載 YouTube配信
107回 11回

月間ページビュー数
39,900 /月

■大阪・関西万博(8/27-29)
TEAM EXPO(9/19-21)
フューチャーライフエクスペリエンス(9/23-25)



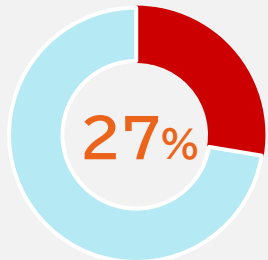
ワークショップ体験者
363人
延べ参加人数
72,000人

■第20回世界湖沼会議(7/21-25)
(オーストラリア)



会議参加者
322名
27か国
参加セッション
(主催含む)
4セッション

認知度



令和7年度 県政世論調査

ロゴマーク利用

386件



(株)平和堂、(株)ファミリーマート、(株)ローソン
「びわ湖の日」を記念した特別商品



読売テレビ放送(株)
鳥人間コンテストスタッフTシャツ

取組の 成果

発信力の拡大とブランド確立

- ✓「ローカルSDGs」として **国際的な共感** の獲得
- ✓SDGsに関心のある企業や自治体、教育機関との新たな接点を創出

MLGsに係る令和7年度の取組実績

つなげる

- ◆ 賛同者間の取組を共有
- ◆ 個々の活動同士をつなげ、新たな展開が生まれる機会を創出

みんなのBIWAKO会議

参加者数
370名
出展団体・企業数
35社

■世界湖沼の日に開催(8/27)
『みんなのBIWAKO会議／COP4』



✓ ブースセッションで
新たなつながり創出

ワークショップ

共催・連携含む
41件
延べ参加者数
4,007人

■滋賀県SDGs事業こどなBASEとの連携ワークショップ(3/4)



- ✓ こどなBASEとの連携し、子ども向けMLGsビンゴゲームを制作
- ✓ 学童施設において遊びながら琵琶湖の未来を考えるワークショップを連携して実施

■案内人等によるワークショップ



取組の 成果

多様な主体の参画拡大とネットワーク強化

- ✓ MLGsを切り口として、多様な主体が緩やかにつながる場を構築
- ✓ 企業・NPO・大学・若者世代が参画

MLGsに係る令和7年度の取組実績

ふかめる

- ◆ 活動に取り組んでいる層に対して、さらに取組が加速するように協力・支援

依頼講演

学校・企業での講演
54件

■ 学校、企業等と連携した講演



光泉カトリック中学校での授業

■ 学校授業への広がり

・ 県立伊香高等学校での導入(11/4、18)



- ✓ 「持続可能な社会づくり」というMLGsを教材に、地元の地域資源を活用したツアープランを提案

環境学習

授業での実践
16件

■ しが環境教育研究協議会(7/31)

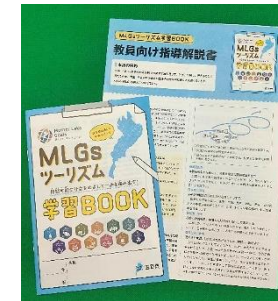


- ✓ 環境教育の指導にあたる教員向け研究会にて「MLGsとのつながりを意識した環境学習」をテーマとして設定
- ✓ 県内小中高の教員100名が出席

■ 環境学習教材の活用



道徳の教科書(中学3年生対象) MLGsツーリズム学習BOOK
でのMLGsの取組紹介
(令和7年3月発行「中学道徳3」教育出版)



MLGs学習動画

取組の 成果

共感から実践へ ー 行動変容の芽の創出

- ✓ MLGsを「知っている段階」から、具体的な「行動を起こす段階」へと進展
- ✓ 学校・企業での自主的取組が多数展開

MLGsに係る令和8年度の取組

現状・課題

- MLGsの認知度は、27%程度で横ばい傾向。
- MLGsの推進により、琵琶湖や琵琶湖に根差す暮らしに向けたアクションに繋げていくことが重要
- MLGsの目標年である令和12年(2030年)に向け、MLGsの更なる推進が必要。



令和8年度(2026年度)は、令和3年(2021年)7月のMLGs策定から5年目の中間年

- 1 目標やこれまでの取組に係る中間評価
- 2 中間評価も踏まえた2030年に向けた取組の加速化
- 3 ポストMLGsの検討開始に向けた準備

1 中間評価

- 13のゴールについて達成状況の評価
- これまでの取組の成果や課題を整理し、今後の効果的な推進方策を検討
- 評価結果を分かりやすく整理し、SNS等で公表

2 取組の加速化

- みんなのBIWAKO会議の開催
(8/27世界湖沼の日)
 - ・「世界湖沼の日」イベント(同日開催予定)と連携
 - ・特に若年層(中高大生等)の参画機会を確保
- 多様な層を対象としたワークショップの開催
 - ・幅広い分野(森林、CO₂、経済、生物多様性等)のイベント等と連携したワークショップ など
- SNS等を活用した効果的な情報発信
- 「びわ活」との更なる連携

3 ポストMLGsの検討開始に向けた準備

- MLGsの中間評価結果や、ポストSDGsの国内外の動向等も踏まえ、ポストMLGsの検討の開始に向けた準備



世界湖沼の日について



「世界湖沼の日」とは

①「世界湖沼の日」

- ✓ 「世界湖沼の日」は、**湖沼が世界各地の淡水需要や生態系の健全性、生物多様性保全に取り組む上で重要な役割**を果たしていることを、あらゆるレベルで世界的に注目を集めるための日(国際デー)
- ✓ 8月27日は、滋賀県が主催した第1回世界湖沼会議(1984年)の開会日



②「世界湖沼の日」制定のメリット

- 「世界湖沼の日」とは
- ✓ 「湖沼」が世界の水を巡る議論の主要課題に位置付けられること (**湖沼問題の主流化**)、持続可能な湖沼管理の推進
- ✓ **世界の湖沼関係者間の意識の高揚や更なる連携に寄与**
- ✓ 国際的に滋賀県・琵琶湖に注目、琵琶湖の保全再生施策の推進に寄与

③ 国際デー(国連の記念日)

- 国際デーは、多くの関係者がそのテーマに関連する活動を組織する機会
- ✓ 200を超える国際デーは、国連の主な活動分野である国際の平和と安全の維持、**持続可能な開発の促進**、人権の擁護、国際法と人道支援の保障に関連
- ✓ 採択後は、国連関連機関や加盟国政府等が**国際デーを啓発活動のきっかけ**として活用

「世界湖沼の日」制定記念の取組

1 “過去”を輝かせる

- 先人たちのびわ湖への想いや情熱、行動に改めて光を当て蘇らせる。

2 “いま”を輝かせる

- MLGsの達成に向けた活動を充実・強化する。
- 気候変動の影響等、従来の取組だけでは解決できない湖沼環境の課題に挑戦する。

3 “未来”を“世界”を輝かせる

- 過去を受け継ぎ、自らが学びを深め成長し、行動する若者を育成する。
- 世界に発信・貢献し、世界から見た滋賀・びわ湖の魅力・価値を更に高める。

4

みんなで対話し、共感を広げ、未来を共創する

- 「世界湖沼の日」制定記念イベント（R7年8月27日）
- 「世界湖沼の日 共創フォーラム」（R8年2月6日）



3

“未来”を“世界”を輝かせる

- 「世界湖沼の日」次世代育成（世界湖沼会議への高校生参加/ワークショップ等）
- 世界湖沼会議への参加・発信（セッション開催等）
- 大阪・関西万博での発信（ブース出展等）
- 国際首長フォーラムへの参加・発信



2

“いま”を輝かせる

- 「びわ活」重点期間（びわ湖の日7/1～山の日8/11）を「世界湖沼の日（8/27）」まで延長
- 「世界湖沼の日2025」共創チャレンジ（企業・団体等の活動等とコラボ）

1

“過去”を輝かせる

- 琵琶湖保全再生レガシー継承（高校生や大学生が先人たちの想いや取組等を取材／保全再生の歴史のアーカイブ化・公開等）
- 琵琶湖博物館での「世界湖沼の日」記念事業

・「世界湖沼の日」制定を契機とした多様な連携の促進
・湖沼環境保全に係る機運の一層の醸成

「世界湖沼の日」みんなのBIWAKOエキスポ

■ 開催日:令和8年8月27日(木)

■ 場 所:イオンモール草津



① MLGs中間総括

- ✓ 令和3年7月の制定から5年が経過したMLGsについて、これまでの取組を説明。
- ✓ 5年間のMLGsへの賛同者の状況や認知度の推移について振り返る。
- ✓ これまで実施してきたMLGsの認知を広げる取組や企業・団体、教育機関等との連携状況について説明。



② MLGs学術評価の報告

- ✓ 学術委員によるMLGs13ゴールの達成状況に対する学術評価結果を報告。
- ✓ 各ゴールについて、担当の評価委員から達成状況と評価の理由について説明。
- ✓ 学術的知見から5年の振り返り・総括について説明。



③ ブースセッション

- ✓ 湖沼保全に取組む自治体や企業、団体、学校等が参加。
- ✓ 出展者がそれぞれの活動について説明、繋がり・連携の機会を創出した。



④ ステージイベント

- ✓ 親子で湖の大切さ等を学べる各種催しを開催。
- ✓ 音楽やゲーム形式で子供が関心をもって湖について知る機会を創出、意識醸成につながった。



⑤ ワークショップ

- ✓ 協賛企業、団体等が体験ブースを開催。
- ✓ 親子が工作やゲームを通して、湖に親しみ、大切さを学ぶことで、意識醸成につながった。



⑥ 国際イベント(国際湖沼環境委員会(ILEC)共催)

- ✓ 日本及び3ヶ国の若者が参加。
- ✓ それぞれが実施する湖沼保全の活動について報告。
- ✓ 国際湖沼環境委員会や滋賀県の関係者と意見交換を行った。
- ✓ 「世界湖沼の日」当日を一過性のイベントにとどめることなく、来年開催される第21回世界湖沼会議へ繋げるなど、若者の行動と地域の実践を通じた価値創出へと転換した。